

「“光る君へ”の時代」特集

大河ドラマもあと四ヶ月。どんなラストを迎えるのでしょうか？大河ドラマを見て、登場人物に興味を持った方もいると思います。そこで、ドラマに出てきた人物が主役の小説を紹介します。

香子 全5巻／帚木蓬生 PHP研究所

紫式部の生涯とともに源氏物語の現代語訳が読めます。著者のペンネームは、源氏物語の「帚木」と「蓬生」から取ったそうです。

はなとゆめ／冲方丁 KADOKAWA

中宮定子の元に出仕することになった清少納言は、定子に導かれ才能を開花していきますが、悲劇が定子を襲います。

月ぞ流るる／澤田瞳子 文藝春秋

朝兒（赤染衛門）は、藤原道長の次女で三条天皇の後・妍子の元に出仕しますが、道長と三条天皇の対立は激しくなっています。「栄花物語」の作者の一人とされる赤染衛門がなぜこの物語を書こうとしたのかが描かれます。

藤原道長王者の月／篠綾子 PHP研究所

藤原兼家の五男として生まれた道長が、どうして権力を手にすることができたのか？道長の栄華の陰には、「打臥の巫女」と呼ばれる助言者の存在がありました。「打臥の巫女」の正体とは？

無間繚乱／秋山香乃 徳間書店

一条天皇が辞世の句に詠んだ「君」とは定子なのか？彰子なのか？一条天皇をめぐる二人の後の愛憎の物語です。

「“光る君へ”の時代」特集 (その2)

特集その2では、ドラマに登場した人物が書いた日記等を紹介します。全文は読めませんが、原文・現代語訳・解説もついて分かりやすいので、角川ソフィア文庫のビギナズ・クラシックスのシリーズで紹介します。


☆平安貴族の生活や政治などが分かります

 **小右記**
藤原実資[著]／倉本一宏[編]
KADOKAWA

藤原道長に意見の言える唯一の人物であった藤原実資の書いた日記です。


 **権記**
藤原行成[著]／倉本一宏[編]
KADOKAWA

平安時代の優れた能書家「三蹟」の一人で有名な藤原行成の日記です。

 **御堂関白記**
藤原道長[著]／繁田信一[編]
角川学芸出版


大河ドラマのもう一人の主人公藤原道長の日記です。

☆源氏物語の成立に影響を与えたとされる日記文学です

 **蜻蛉日記**
右大将道綱母[著]／角川書店[編]
角川学芸出版

藤原道長の父藤原兼家との結婚生活を綴った回顧録です。百人一首で有名な「嘆きつつ～」の歌のエピソードがあります。

☆『源氏物語』と双璧をなす文学作品です

 **枕草子**
清少納言[著]／角川書店[編] 角川書店

一条天皇の後藤原定子に仕えた清少納言が書いた随筆です。「香炉峰の雪」以外にも宮仕え時の出来事が書かれています。

おまけ

☆ドラマで紫式部が書き写していた『新楽府』所収

 **新釈漢文大系 97 白氏文集(一)** 岡村繁／著 明治書院

『白氏文集』は、白居易(白樂天)の漢詩文集です。そのうち『新楽府』は、政治批判や社会風刺をうたっています。ドラマで一条天皇が紫式部に『新楽府』を読んだのか問う場面がありましたが、その時に紫式部が引用したのは、『新楽府』の中の『潤底松(かんでいのまつ)』の一節でした。のちに紫式部は、藤原道長の娘彰子に漢学の講義を行うことになり、『新楽府』をテキストにしています。興味のある方は読んでみてはいかがでしょうか？

《編集後記》 紫式部が大河ドラマの主演となり、彼女自身や彼女が生きた時代を取り上げた本が数多く出版されています。紫式部推しのわたしとしてはうれしいのですが、読むための時間が欲しい!と思う今日この頃です。(Y)